

## 教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	ヤマ ダ エイ キチ	性別	男	生年	1955年
氏名	山 田 英 吉	身分	教授		
所 属	保育学科				
学 歴					
年 月	事 項				
1974年4月	北海道教育大学札幌分校 入学				
1978年3月	北海道教育大学札幌分校 卒業 教育学士(美術)				
職 歴					
年 月	事 項				
1978年4月	北海道檜山北高等学校 美術教諭 保健部長 進路指導部長				
1992年4月	北海道滝川西高等学校 美術教諭 教務主任				
2005年9月	北海道更別農業高等学校 教頭				
2008年4月	北海道女満別高等学校 教頭				
2009年4月	北海道更別農業高等学校 校長				
2011年4月	北海道根室西高等学校 校長				
2013年4月	北海道札幌南陵高等学校 校長				
2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 教授 現在に至る				
2017年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育学科長 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目 (2019年度)					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
造形表現	絵画工作室	前期	金曜日	3時限	
領域造形表現A	絵画工作室	前期	水曜日	1時限	
領域造形表現B	絵画工作室	前期	水曜日	3時限	
特別研究	絵画工作室	前期	金曜日	2時限	
保育実践演習	絵画工作室	前期	火曜日	2時限	
領域環境	絵画工作室	前期	火曜日	4時限	
保育実習指導Ⅱ	201教室	前期	火曜日	3時限	
保育内容Ⅶ(子どもと文化) A	絵画工作室	後期	月曜日	3時限	
保育内容Ⅶ(子どもと文化) B	絵画工作室	後期	月曜日	4時限	
特別研究	絵画工作室	後期	金曜日	2時限	
保育実践演習	絵画工作室	後期	火曜日	2時限	
幼児教育の方法と技術	103教室	後期	金曜日	3時限	
造形表現	絵画工作室	後期	水曜日	1時限	
総合芸術・総合芸術表現	絵画工作室	後期	月曜日	5時限	
総合芸術・総合芸術表現	絵画工作室	後期	金曜日	5時限	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>ほぼ全員が保育者として子どもたちと関わることを踏まえて、毎回の授業は講義と演習の構成で実践的に知識と技能を身に付けていく。</p> <p>保育の場で出会う子どもたちが、豊かな感性や表現力を身に付け、創造性豊かに成長するために、幼児期の造形表現活動を効果的に展開できるよう、基本的な事項と実際の展開例を紹介しながら実践的に学習する。</p> <p>子どもが活動を理解し、やってみたい、できるようになりたいという意欲を引き出す動機づけが重要であり、子どもたちを惹き付けるコミュニケーション力も大切である。</p> <p>毎回の授業では、題材のねらいを明確にして、保育者の支援のポイントや準備から片付けまでの流れを一つ一つ分かりやすく解説していく。短期的には保育・教育実習に関連付けた内容で展開するが、長期的には、全ての科目の授業内容が有機的に働き合い、全員が保育者としての実践力を身につけることが目標である。</p> <p>学生自身が子どもの目線で表現の楽しさを実感し、探究心を持って創意工夫し、最終的には保育活動の改善や教材開発する応用力を身に付けさせたい。</p> <p>学生は、毎回の授業を楽しみにしており、自分なりの創意工夫を活かしながら生き生きと授業に参加している。全員の意識や態度、技術に向上が見られる。保育・教育実習では、授業の学びを応用して実践する学生が多くみられている。</p>
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>全員が授業のねらいを意識しながら、楽しく学んで向上を目指している。はじめは「絵を描くことが苦手」「不器用だから」「センスがない」と自信をなくしていた学生も、子どもの全面発達を促す具体的な内容や方法を実践的に学んでいく中で、学び直しや再確認する機会にもなることから、できた喜びやつくる楽しさを味わい、自らの向上に気づく。もっと多くのことを学びたいという前向きな声が多く聞かれる。苦手意識を持たせない指導にも努めている。</p> <p>また、入学後の早い段階から、実習や保育の現場をイメージさせるために、グループごとに「評価(褒められ)シート」を作成させている。良さを認め褒めること、褒められることを通じて、個性や多様な表現に対するコメント力の向上を図っている。</p>
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>実際に作品等の手づくり見本を提示するとともに、準備や製作の手順等が分かるテキストを作成し配布している。テキストには途中段階の画像も掲載し、分かりやすさに努めている。また、実習指導科目等の指導案作成や模擬保育に活用する学生が多く見られることから、指導案に編集し易いよう項目や構成を工夫した。</p> <p>教材等については、保育の現場で一般化しているものだけでなく、地域の自然環境や産業に触れる素材や伝統的なものから新しいものまで幅広く扱う。また、無理のない材料の入手や経費節減についても紹介する。</p>
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>大学祭における幼児を対象とした子どもの広場の開設</p> <p>深川市内幼稚園や文化交流ホール、旭川市児童センターでの人形劇公演</p> <p>保育の現場における出前「造形教室」の企画・準備・実施の指導、監修</p> <p>実習指導・進路相談</p> <p>深川市教育委員会「夏休み手作り教室」学生ボランティア指導</p> <p>文化交流ホール「こどもまつり」における「手作りおもちゃコーナー」学生ボランティア指導</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p>深川市市民公開講座 「日本の伝統絵画」講師 (2015年9月)</p> <p>保育セミナー 講師・ファシリテーター (2015年～)</p> <p>空知北組保育研修会 講師 (2015年10月・2016年10月)</p> <p>聖公会施設職員研修会 講師 (2017年7月)</p> <p>北海道私立幼稚園協会空知・留萌支部保育研修会 講師 (2019年7月)</p>
<p><b>研 究 業 績</b></p>	
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>○子どもの造形表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を促す造形表現活動を展開できる実践力のある保育者、センスの良い保育者を養成する授業、地域や学生の実態に応じた教材の精選、系統性のあり方について</li> <li>・保育の場における子どもの造形表現活動を支える人的環境・物的環境のあり方や子どもの文化の効果的な活用について</li> </ul> <p>○日本の伝統芸術の表現と技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本画の歴史と伝統手法による制作、材料について</li> </ul>
<p>2 研究課題(今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>○出前保育「造形教室」の体験がもたらす学生の意識の変化から見える成果と課題子どもの造形表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団制作における動機づけと効果的な展開方法、素材と道具の扱い等について、保育施設において造形教室を実施し検証する。</li> <li>・学生が学びの実践の場として、各自の課題を明確化し、克服するプロセスを検証する。</li> <li>・保育現場の描画活動の課題について検証する。</li> </ul> <p>○領域「環境」のねらいを踏まえた幼児の造形表現活動の教材と展開について検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然物や産業、文化等を活かした保育活動を提案する。</li> </ul>

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 なし				
	(2) 学内 なし				
	(3) 学外 なし				
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	高等学校教諭専修免許状 (美術)				
	中学校教諭 1 種免許状 (美術)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
私の写生地案内		共著	2001 年 3 月	日本文教出版	スケッチ作品と写生地の解説集
『個に応じた教育課程の編成と指導方法・形態等の工夫』		単著	2004 年	平成 15 年度空知管内教育推進資料 (北海道教育委員会)	「生徒の特性や進路等に応じた科目選択幅の拡大」と「基礎・基本の確実な定着と習熟の程度や進路に応じた少人数指導やティームティーチングなどの指導方法や形態の工夫」を柱とした取組事例
特色のつくりかた 「地域を学ぶ」		単著	2012 年 11 月	日本教育新聞	北方領土学習と学力向上の実践事例
学生による子どもの造形表現活動の実践報告		単著	2018 年 3 月	拓殖大学北海道短期大学研究紀要 (創立 50 周年記念号)	幼児対象の「造形教室」を通し、幼児が表現することを楽しみ、さらに意欲を高めるためには、実態を踏まえた環境づくりや子どもの文化財の効果的活用、指導計画と事前準備の重要性、そして保育者の表現力やコミュニケーション力に左右されることを学生が体験から学び、その成果と課題の自覚と意識の変化を事後アンケートから考察
研究業績 (過去 3 力年分)					
著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
			1	無	有
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要 10 件程度)	就職委員会 (2014～2016 年度)				
	図書委員会 (2014 年度) 入試広報委員会・副委員長 (2016 年度)・委員長 (2017 年度～) 保育学科長 (2017 年度～)				
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関 (公的機関・民間団体等) を通しての活動 (主要 10 件程度)	日本学校農業クラブ全国大会意見発表会 審査員 (2010 年 10 月)				
	深川市舞台芸術交流協会副理事長 (2015 年 5 月～) 北海道深川西高等学校 学校評議員 (2017 年 4 月～)				
2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	全国高等学校生活科学科研究協議会 助言者 (2010 年 8 月)				
	北海道高等学校美術工芸教育研究会 会長 (2011～2013 年度) 北海道高等学校教育研究会芸術教科部会 部会長・助言者 (2013 年度) 大学美術教育学会 会員 (2014 年～) 全国大学造形美術教育教員養成協議会 会員 (2017 年～)				